

自分と向き合うこと

ポリテクセンター長野の大石先生より紹介を受けました、ポリテクセンター広島の島田です。大石先生は僕の初めての後輩で、京都ポリテクセンターでは突然授業を代わってもらったり、大石先生のボーナスでパスタをご馳走していただいたりと、本当にいろいろな面倒を見ていただきました。今回は「面白い話」をとのことでしたが、社会人2年目から週1回程度で続けております、趣味のインラインスケートについて書きたいと思います。

インラインスケートと私の出会いは社会人2年目の夏でした。現在、四国能開大香川校にて教壇に立っておられます私の師匠、大野先生とともに「運動不足解消」をしようと京都市内のスポーツ店を探検することにしました。実は2人ともスノーボードにはまっておりまして、夏のオフトレのためにスケートボードをしてみようかと京都市内を探検していたのです。ところがスポーツ店を訪れ、スケートボードの隣の棚に目を向けてみましたところ、インラインスケートがひっそりとたたずんでいたわけです。冷やかし半分で手にとってみると、そのタイヤ（ウィールといいます）が音もなく滑らかに回るではないですか！（私は電子系でしたのでベアリングの威力というものを知りませんでした）そのスムーズさに心を打たれ、店から出るころには何故か手元にスケートが収まっておりました。そのときは完全に見た目で選んでしまい、スケートに種類があることを知りませんでした（フィットネス、ホッケー、アグレッシブと種類があります）。

ところが実際にはいてみると、そのスムーズさにやられました。転びまくりです。先輩はスイスイ滑っているのですが、私が普通に滑れるようになるには1ヵ月くら

いの時間を要しました。そして普通に滑れるようになると、今度はいろいろ試してみたくなるものです。そこで京都市内でだれか滑っている人はいないかとHPを検索してみましたところ、京都グランド&ジャンプというモーグルのチームに出会うことができました。そのとき初めて、実は自分たちのブーツが単に滑るためのものではなく、エアやグランド（縁石やレール等をスライドすること。スケボー少年がやってるアレです）用であることに気づいたので。そのときのドキドキ感は今でも忘れられないです。これまで普通に見えていた石段や手すりすべてがすべてセクション（挑戦する対象）であることに気がついたのですから。

それからは本当にいろいろな場所で滑るようになりました。街に出て階段をエアで飛び越えてみたり、ベンチや手すりをグランドしてみたり、面白そうなモノを見つけては挑戦！ その繰り返しです。それから現在に至り仲間も増え、本当に生活の一部になった気がします。危険なスポーツであり怪我もしましたが、自分の限界と向き合い、集中し、無謀な挑戦はしないという感覚も身に付けることができました。私はスケートに出会ったことで集中力と柔軟な考え方を身に付け、仕事に生かすことができましたと思います。

さて、今回はポリテクセンター佐賀の河野さんです。河野さんは大学時代一緒にアルバイトに励んだ仲で、最初の赴任地も僕が京都で彼が滋賀と隣であったため非常によく遊びました。愛車のRX-7をこよなく愛する心やさしい走り屋でもあります。心温まるいい話を期待しましょう。よろしくお願ひいたします。